

三中校長だより 保護者地域の皆さんへ  
令和4年度 第11号 R4.9.22(木)



藤井寺市立第三中学校  
校長 奥 雅 美

### 「3年生全員リレー」

3年生にとって中学校生活最後の大きな行事体育大会で、学年種目の全員リレーはクラスの団結を深める特別な取り組みです。先日、学年練習が行われ、終わった後の生徒の興奮した様子を見ると、「心に火がついたな」と感じました。

充分に作戦を立て、修正し、走ることが得意な生徒も、そうでない生徒も必死でバトンを繋ぎ、みんなが必死で応援し、それに応えようと全力を尽くす姿は、観ている方も引き込まれ、思わず涙がこみ上げてくるのです。これに向けての様々な活動があるからこそ勝っても負けても仲間の絆が深まるのです。一人1秒縮めれば37秒リードできるのですから、練習とは順位は入れ替わる可能性が充分あります。これからがとても楽しみです。

毎年この時期に気になるのが、怪我です。部活動を引退して少し期間があり、筋力が落ちているのに無理をしてしまう子が多いように思います。気持ちは分かるのですが、十分に注意してほしいと願っています。

### 「リコーダー(音楽 たて笛)」

コロナ禍でマスクを外して呼吸を吹き出すリコーダーはリスクが高い活動とされています。以前は指使いだけ学習し、実際に吹くのは家でしていたのですが、なかなか効果的に学ぶことが難しかったようです。現在、本校の音楽の授業では、校区の業者に相談し、短い紙筒をリコーダーの吹き口にかぶせ、マスクをしたまま火吹き竹のように吹いて音を出しています。音を聞きながら指使いの修正ができ、しっかり技術が身につきます。素晴らしい発想と工夫に感心しました。

### 「タイミング」

この春から何度か本校の学校教育目標である「社会人基礎力」について話をさせていただいています。私はこの中で一番大事だと思うのは「挨拶」です。「挨拶」はコミュニケーションの基本です。人間関係が上手くいっている集団は業績が伸びるとも言われており、企業で新入社員にまず教育するのは「挨拶」と「掃除」だそうです。社員側もよく理解していて、卒業生が自分の会社はそういった新入社員研修がしっかりしている素晴らしい会社だと友だちに自慢しているのを聞いたことがあります。

あるとき、生徒が「挨拶って、どこですればいいのか悩むわー」と言っていたことがあります。詳しく聞くと、「見通しのいいところで誰かと会ったとき、相手との距離が少しあって、挨拶しようと思っているんだけど、どこまで近づいたときに挨拶すればいいのかタイミングが分からない」というのです。そのとき、ふと通勤途中によく会う卒業生を思い出しました。自分も相手も自転車なのですが、20mぐらい離れていても手を振って合図してきて「おはよう」と声を掛けてきます。私は「おはよう、行ってらっしゃい。」と返します。たったそれだけなのですが、朝からとてもいい気持ちになれるのです。私も自分から挨拶する方だと思っていますが、いつも相手の方が早いです。

つまり、「挨拶」のタイミングは相手より早いほうが、相手に「幸福感」を与えやすいということではないでしょうか。

本校の正門の正面、アセンブリの壁に

～笑顔を咲かせよう～

あかるく きいきと さわやかに なげよう  
と書かれた「あいさつ運動」の横断幕があります。生徒会・委員会やPTAの皆さんにも朝の「あいさつ運動」に協力いただいています。最近はほとんどの生徒がしっかりと声を出して挨拶を返してくれたり、目を合わせて会釈してくれたりします。三中生のこんな学校文化が素敵だなと感じています。